

日本学術会議 化学委員会
材料化学・分析化学分科会（第 26 期・第 7 回）
議事要旨

日時：令和 7 年 12 月 25 日（木）15：20－16：10

場所：学術会議 5-C 会議室及び（オンライン併用）オンライン（Zoom）

出席者（敬称略）：栄長 泰明（委員長）、玉田 薫（副委員長）、齋藤 公
児（幹事）、内藤 俊雄（幹事）、岡本 裕巳（三部会員）、阿尻
雅文、上野 祐子、加藤 昌子、加藤 知香、川崎 ナナ、佐
藤 縁、菅原 洋子、関根 千津、竹内 孝江、竹岡 裕子、
寺西 利治、馬場 嘉信、藤本 俊幸、宮崎 あかね

欠席者（敬称略）：伊藤 耕三、山下 正廣

配付資料：学術フォーラム開催（概要案）

1. 無機化学分科会の活動及び 2026 年 1 月 31 日の公開シンポジウムに関して、
栄長委員長から紹介があり、化学委員会の方針で、当分科会も主催として参
加したい旨があり、全員一致で承認された。

2. フォーラムの詳細について

学術フォーラム開催（概要案）に基づき、前回の会議以降委員長を中心に進
めてきた準備状況が説明された。開催趣旨の説明とプログラムの概要も説明
された。

- 1) 開催日時 令和 8 年 3 月 4 日（水）13：00～16：20
- 2) 開催形式 日本学術会議主催
- 3) 開催場所等 日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）
- 4) テーマ

「くらしを豊かにする化学の力 ―材料と分析の融合が拓く未来―」
プログラムは配布資料参照のこと。

議論として、日本学術会議及び当分科会が主催で、共催として日本化学会、
電気化学会、日本分析化学会、日本分析機器工業会をベースとして、意見とし
て材料系の学会も入れるべきとの意見があった。具体的な提案として、ナノ学

会、日本 MRS、化学工学会、日本質量分析学会等が挙げられた。各学会への依頼フォーマットは事務局に依頼することにした。

また申し込みの方法と申し込みの締め切りを開催の 3 日前にすることとした。申し込みの際に、大学の場合には、教員と学生の区別ができるようにしたら良いとの意見があった。

オンライン配信に関して、Youtube 配信で、オンライン参加に関しては質疑に関して受け付けず、アンケート形式にすることとした。詳細は学術会議事務局と対応の業者と詰める。

ポスターの作成は内藤幹事を中心に進めている。

総合討論の事前打ち合わせは、2026 年 2 月 26 日にファシリテーターの谷口先生を含めて行う。内容として、各パネラーからの個々の発表は実施せず、日本分析機器工業会からの問題提起等の発表ののち、各パネラーによる産学連携に関する議論を深めながら総合討論をすることとした。また暮らしを豊かにするためにどういう分析技術に関しても議論出来たらよいとの意見があった。

スケジュール的にタイトなので、色々な準備を急ぐ必要があるとのコメントがあった。

以上